



## クスリ雑感

国家公務員共済組合連合会  
名城病院副院長

木本英三

「何かクスリはないか、クスリが欲しい」、「できるだけ、クスリは飲みたくない、増やしたくない」など、クスリに対する考え方は実に人様々である。最近よく出会うのが、「一度クスリを飲み始めたら、一生飲み続けたいといけなくなるから飲みたくない」という理屈。もっともらしく聞こえるが、落ち着いて考えるとおかしいことに気付く。一人だけではない、何人もの人が同じ論法でクスリを躊躇される。高血圧や糖尿病など慢性疾患のコントロールのためのクスリの話である。こういう慢性疾患は、一定の年齢で発症し以後年齢とともに徐々に進行していくものであり、治癒することはなくコントロールするしかない。食事療法や運動療法でコントロールできているうちは良いが、早晚クスリの助けを必要とする時が来るわけで、クスリを始めたから一

生飲み続けなければならなくなるわけではない。病気が一生じわじわと進行しながら続くのである。基礎的療法だけでよいか、それだけでは不十分かというだけのことである。

しかしこの論法を考え直してみると、これまでは基礎的治療を怠ってきた、ここでクスリを始めてしまうと、基礎的治療をしっかりやらないままクスリに依存していつてしまうのではないかと、というのが本当のところかもしれない。そうならば理解できる。基礎的治療をしっかりやって、クスリを必要とするレベルから脱却できれば、クスリ開始の時期を遅くできるわけで、最終的なクスリの必要量も減らすことができる。これはいいことである。でも、それならそれで、基礎的治療を何故いままですっきりやらなかったのか、という医者の恨み言のひとつもい

いたくなる。それはさておき、クスリ始めましようは、健康管理サポーターजूへのきつい警告なのかもしれない。

ただ、基礎的治療をしっかりやってクスリの開始を遅くできる人は残念ながら数えるほどしかない。言い方を変えると、努力に努力を重ねないと難しい。いずれの疾患も親から引き継いだ素因が強く影響するので、基礎的治療だけでは御しきれないことが多い。いつかはクスリを必要とする時が訪れるのは避けがたい。

日常的にできる健康管理をやってもなおかつクスリを必要とするレベルとなった時はためらわずクスリの助けを借りてほしい。高血圧を基礎疾患とする心筋梗塞や脳梗塞あるいは糖尿病性合併症などは一端発症してしまうと大変苦労することとなる。それらの発症確率を下げるためにいつクスリを始めるべきか、これはよく相談しかつ納得して決めて欲しい、と思う今日この頃である。

WEB  
サイト  
ご案内

ホームページへのアクセスは

<http://www.meijohosp.jp>

または  検索

携帯サイトへのアクセスは



<http://www.meijohosp.jp/mp/>

または、  
左記のQRコードをご利用ください。

## 脳神経外科紹介

今年1月から脳神経外科部長に着任した河合達巳と申します。

4月からは大井祥恵先生が常勤として勤務し、脳外科専門医2名体制での診療をスタートさせていただいています。

2名ともに名古屋大学脳神経外科同門会に所属し、毎週水曜日の外来と脳ドックの判定を名大脳外科医局長の藤井正純先生に協力してもらっています。

名城病院は大規模病院ではありませんが、虚血性心疾患・腎臓疾患（血液透析）について地域医療の中核的役割を果たしていると思います。それらの科の患者さんは脳卒中など脳外科的疾患を合併されることが多いので、各科の先生方と緊密にコミュニケーションをはかり積極的に治療に加わっていきたくと考えております。わずか2名体

制ですので大手術・高度治療の実践は困難ですが、個々の症例を丁寧に診療し患者さんに御満足いただけるよう励んで参ります。

近年普及の目覚ましい血管内治療（カテーテル治療）については名古屋大学の血管内治療

グループの専門医に来ていただいて治療を行って参ります。

脳外科の外来には手術室で使用しなくなった古い顕微鏡が置いてあります。

時間を作っては顕微鏡下操作の練習（修行）をしています。研修医の先生方にも一緒に練習してもらい、マイクロ操作を身につけてもらうよう努めています。



す。その中から脳外科を志望する先生が現れてスタッフが更に充実していければと夢描いております。

名城病院が発展し地域医療に益々貢献できるよう努力して参ります。よろしく願いいたします。

## 11 階病棟紹介

11階病棟は呼吸器内科・脳神経外科・口腔外科・眼科の患者さんを主に受け入れております。

呼吸器内科はCOPD（閉塞性肺疾患）などの慢性の肺疾患や肺癌、脳神経外科は脳出血や脳梗塞、口腔外科は抜歯目的の方、眼科は白内障の患者さんなどがみえます。

私たちは、たくさんの疾患の特徴や進歩する医療についてだけでなく、患者さんの入院や疾患に伴う不安な気持ちにも目をむけ、患者さん自身が治療に専念できるような良い療養環境を提供することを日々心がけています。

入院し環境の変化などにより不安が強い高齢患者さんにはベッドサイドにて話を傾聴し、重篤な症状がある時には医師と協働し、その症状が軽減できるように努めています。

また、リハビリテーションを行っている患者さんにはリハビリ室だけではなく、病棟でも看護師が付き添って一緒に運動することもあります。

病気によっては退院し自宅に帰った後も病気と付き合っていかなければならない患者さんもみえます。そのような患者さんには入院中から病気の特徴や日常生活をする上で注意しなければいけないことなど、自宅で快

適な療養生活ができるようなお手伝いをしています。

当病棟には摂食・嚥下障害看護認定看護師もおり、食べ物を飲み込むことが上手くできない患者さんに対してどのような方法であったら食べやすいかなど、専門的なケアも提供しています。

これからも私たちは患者さんに親しまれ、信頼される看護を提供していきたいと考えています。



## 栄養部

管理栄養士・NST専門療法士

中村正樹

## 栄養指導について

「食」という字は「人」を「良」くすると書きますが、私たちは食べ物を消化・分解・吸収して体を構成し、エネルギーを生み出しています。体の機能を維持したり高めたり、また病気の改善を目的として食べ物からとり入れるものを栄養といいます。みなさんはどうでしょう。栄養をとっていますか。

現代は24時間好きな時に好きなものが食べられる便利社会となり、運動不足や肥満、偏食、暴飲暴食、ストレスなどを原因とした生活習慣病と呼ばれる病気が増え続けています。

当院では医師の指示に基づき糖尿病や脂質異常症、高血圧症をはじめとする生活習慣病、急性・慢性疾患、腎臓病、肝臓病、妊娠高血圧症候群、肥満症、術後、その他種々の疾患の方を対

象に集団指導・個人指導・クリニカルパス・母親教室・病診連携による栄養指導を行っています。予約制となっていますが日時の調整が必要な場合はご相談ください。

栄養指導では病状ごとに食事療法の意義、栄養の基礎知識をわかりやすく説明し、パンフレットやプリントを用いて食事計画を提示して、病気の維持、改善ができるよう料理方法や食べ物が持つ力の活かし方をお伝えします。食べることは一生続

きますので改善には一定期間だけ頑張るのではなく、無理なく長く続けられることが大切です。

食生活、食行動の改善点を患者様と一緒に見つけ、その人に合った栄養量とバランスが保てるオーダーメイドの栄養指導を行っています。



### 《栄養指導申込み方法》

- ① 患者様はかかりつけの医師へお申し出ください。
- ② 病診医療機関様は「紹介患者様事前診察申込書（栄養指導用）」を病診連携室宛にFAXしてください。

## リハビリテーション部

## リハビリテーション部紹介

皆さんは「リハビリ」というと何を思い浮かべますか？「電気をあてる」、「あたためる」と考える方がほとんどではないでしょうか。

リハビリテーション(rehabilitation)の語源は、ラテン語rehabilitareで、re(再び)+habilis(人間としてふさわしい)+tare(状態になる)という意味であり、人間が人間としてふさわしくない状態になったときに再びそれをふさわしい状態に戻すこと、すなわち「権利、資格、身分の回復」という意味で使われてきた言葉です。

名城病院のリハビリテーションは、電気をあてる、あたためる等の物理療法ではなく、運動

療法を主体として行っております。例えば、脊椎疾患再発予防のために、良い姿勢での歩き方指導や柔軟体操実施、様々な理由で安静治療の結果、筋力が低下し歩行出来なくなった方に筋力強化運動や歩く練習を行っております。毎日運動を実施するために、4階リハビリ

テーション室には、約100名前後の入院患者さんが入れ替わり次々と入室されております。

これからも、リハビリテーション部スタッフ一丸となり、



多くの方々が入院前の生活に少しでも近づけられるよう、人間らしい生活を送られるよう、毎日笑顔でお手伝いしていきたいと考えております。

## 患者相談室の開設について

患者相談室が平成25年1月4日より開設いたしました。その併設として患者相談窓口が、1階の7番で業務が始まり半年が過ぎようとしています。

この窓口が開設された当初は、“もっと早くに、このような相談窓口があればいいのにと” “やっとできたねー相談窓口が” など、患者さんやご家族の方々から多くの声をいただきました。

今窓口には、患者さんやご家族から、病気に伴う様々な問題や不安・心配事のご意見、ご相談が、月200件を超えようとしております。

お受けしましたご意見やご相談は、相談により不利益を受けることがないように配慮することを心がけております。

ご相談・ご意見内容が、患者相談窓口で対応しきれない時は、相談となった部門に支援を依頼し、ご意見・ご相談が問題解決へとできるよう取り組んでおります。

また、いただいたご相談やご意見は、医療安全や病院運営の改善に生かし、患者さん・ご家族が安心して治療を受けていただけるよう、患者相談窓口担当として皆様の声に真摯に耳を傾け役割を担っています。

患者相談室  
前田タツ子

## 平成25年春の叙勲 瑞宝双光章を受章

検査部 前副技師長  
大江 幸雄 氏



検査部前副技師長 大江幸雄氏が平成25年春の叙勲「瑞宝双光章」を受章されました。保健衛生功労者として、医療の向上発展に取り組んでこられた功績が認められました。

編集

早いものでもう8月、今年もあの『暑い！夏』が到来しました。年々梅雨も短くなり気付けば梅雨明け宣言、蒸し暑い名古屋の夏を過ごすこととなりました。近年の気候をみれば、地球規模で変化しているように感じられます。自分の幼少期では30度を超えれば猛暑日と騒がれましたが、今や40度という数字を耳にします。例年のことではありますが、エアコンのつけ過ぎには注意し、節電・エコを心掛けこの夏を乗り切って行きたいです。また、東日本大震災後のエネルギー問題も忘れることなく、節電に協力していきたいと思えます。それでは皆さん、よい夏休みをお過ごしください。

T.M

後記

## 名城病院診療等のご案内 <http://www.meijohosp.jp>

診療科目	内科・循環器科・小児科(小児循環器) 外科・整形外科・心臓血管外科・脳神経外科 皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科 歯科口腔外科・神経内科
------	-------------------------------------------------------------------------------

診察受付時間	[新患受付] 午前 8:30 ~ 11:30 まで [再来受付] 午前 8:00 ~ 11:30 まで
面会時間	[一般] 午後 0:30 ~ 8:00 まで [新生児] 午後 0:30 ~ 8:00 まで (授乳時間を除く) [ICU] 午後 0:30 ~ 4:30 まで (家族のみ) 午後 5:00 ~ 8:00 まで

診療案内	[休診日] 土曜日・日曜日・祝日 年末年始(12月29日~1月3日) 創立記念日(11月6日)
------	-------------------------------------------------------

所在地	〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1 TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318
-----	-------------------------------------------------------------------

お問い合わせは、  
・午後の診療等、詳しくは、医事課まで(内線 2132)  
・病診連携に関しては、病診連携室まで(内線 2151)  
医療機関の方へ  
・医療福祉に関しては、医療福祉相談室まで(内線 5105)



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。